

令和２年度 資源・漁獲情報ネットワーク構築事業 報告書

大課題名：資源情報集約ネットワーク

海域名(中課題名)：操業情報収集システムの開発

【参画機関】

一般社団法人 漁業情報サービスセンター

水産研究・教育機構 水産資源研究所

【対象魚種】

【対象漁業】

沿岸・沖合・定置網等

【実施計画】

1) 操業情報収集システムの開発

令和元年度に構築した操業情報収集システムの運用を行う。大課題「沿岸資源情報ネットワークⅠおよびⅡ」と連携し、データの集約対象地域の拡大および対象測器の拡大に対応するよう、飛鳥なデータ項目の追加、コード変換機能の追加、フォーマット変換機能の追加などを行い、スムーズなデータ登録ができるようにする。また将来的な水揚げ情報収集システムとの連携を視野に入れ、操業情報収集システムにおいて必要な情報および追加機能について検討を行う。

【今年度の成果】

令和元年度に構築した操業情報収集システムの運用を行った。大課題「沿岸資源情報ネットワークⅠおよびⅡ」と連携し、日本海および瀬戸内海で情報収集したデータを登録できるように、変換プログラムの追加等の作業を行った。さらに、将来的な水揚げ情報収集システムの連携を視野に入れ、操業情報収集システムにおける追加機能についての検討を行った。

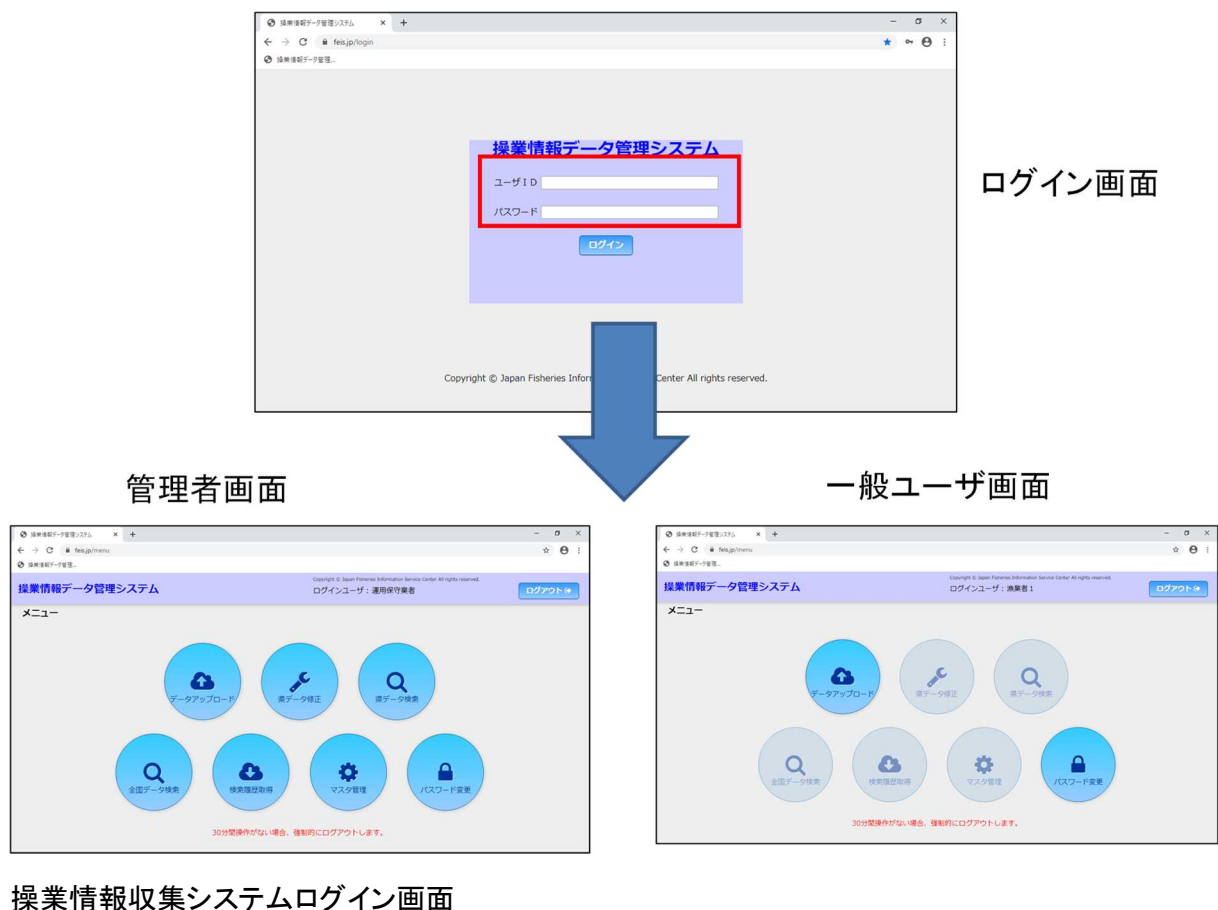
【事業期間全体の成果】

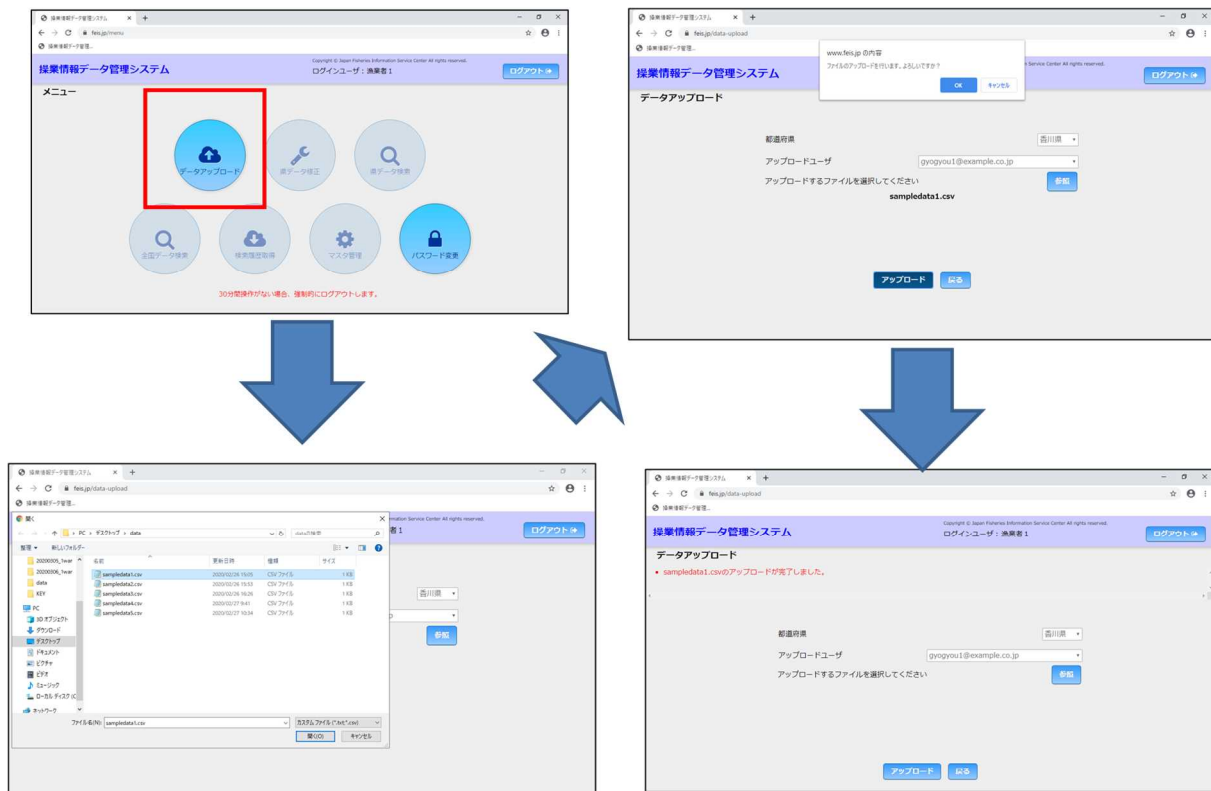
- ・ 沿岸資源情報ネットワーク、資源環境情報ネットワークで集める情報について、効率的に集約・発信する仕組み、受け皿となるデータベースの構築について検討した。
- ・ このうち、特に船から直接報告する操業情報ならびにロガーデータなどの環境データをリアルタイムに受信保存するシステムとして、操業情報収集システムを設計構築した。
- ・ 操業情報収集システムを運用するとともに、JSON形式でのファイルを受信できるようにした。

【実施概要】

- ・令和元年度に構築した操業情報収集システムの運用を行った。
- ・大課題「沿岸資源情報ネットワークⅠおよびⅡ」と連携し、日本海および瀬戸内海で情報収集したデータを登録できるように、変換プログラムの追加等の作業を行った。特に日本海情報収集したデータを登録できるようにするため、WEBAPI 接続後、JSON 形式でのファイルを受信できるようにした。
- ・将来的な水揚げ情報収集システムの連携を視野に入れ、操業情報収集システムにおける追加機能についての検討を行った結果、今後漁業者を一意に絞るための漁業者 ID に相当するものをデータ登録できるようにすることにより、水揚げ情報収集システムに登録されたデータと合わせることが可能となることがわかった。また漁協の販売システムに入力されないデータは、自動では水揚げ情報収集システムに登録されないことから、標本船調査結果を登録する機能に加え、操業情報収集システムを活用した漁獲報告にも活用できることがわかった。

【図表など】





操業情報収集システムデータ登録の流れ

【実施に当たっての問題点】

- ・操業情報データベースについては、リアルタイムでデータを受信できるという利点がある。一方、登録されたデータ更新、修正については、専用画面を使って行うことを想定しており、随時更新削除を行うことは想定していない。今後、標本船調査に加え、漁獲報告にも活用できることがわかったが、その際には、データ登録のタイミングや修正方法について整理する必要がある。

【資源調査評価事業に受け渡す事項】

特になし

【成果の発表】

特になし